

足寄動物化石博物館

足寄動物化石博物館は、足寄で出土した先史時代の多くの化石を収集しています。展示には、絶滅した海洋哺乳類のレプリカや、現代の海洋哺乳類のレプリカ、また現在北海道近海を泳いでいる様々な種のクジラの骨格標本（実物）といった稀少な収蔵品が含まれています。「化石工房」では、カバに似たデスモチルス（*Desmostylus*）のレプリカを自分で作ったり、「ミニ発掘」といった活動を体験できます。あらゆる年齢の方が学べる魅力的な博物館です。

先史時代の海洋哺乳類

足寄町は、過去ずっと内陸部の山地だったわけではありません。足寄にある崖の地層で発見された海洋生物の化石が、足寄の地史を知る手がかりになります。古生物学者たちは、これらの化石の研究から、北海道はかつては小さな島々の集まりであり、構造プレートの移動が陸地の大きな衝突を生じさせた、と結論しています。北海道が現在のような1つの陸地になったのは、約1,000万年前です。

この博物館の見どころには、絶滅した海洋哺乳類であるアショロア・ラティコスタ（*Ashoroa laticosta*）とベヘモトプス・カツイエイ（*Behemotops katsuiei*）の化石などがあります。この2種類の化石は、それぞれ1976年と1980年に足寄で発見されたものです。これらの動物は「束柱目」に属しており、太い脚のあるカバのような生き物です。漸新世（3400～2300万年前）の後期に生息していました。カリフォルニアの海岸で見つかった束柱目の化石は、北海道の一部と北米がかつては物理的につながっていたという強力な証拠です。

北海道の北にある樺太島では、1933年、世界で最初にデスモチルス・ヘスペルス（*Desmostylus hesperus*）の全身骨格が発見されました。デスモチルス・ヘスペルスは、アショロア・ラティコスタとベヘモトプス・カツイエイに近い種です。デスモチルス・ヘスペルスは水生の動物で、中新世（2300～1000万年前）の初期から中期に生息していました。足寄動物化石博物館が所蔵するデスモチルス・ヘスペルスの化石のレプリカ数は世界最大級です。博物館を訪れた人は、アショロア・ラティコスタ、ベヘモトプス・カツイエイ、デスモチルス・ヘスペルスの化石のレプリカが並んでいるのを見てそれらを比較するという、稀な機会が得られます。

クジラ、過去と現在

この博物館はクジラの骨格標本と化石を多く収集しており、先史時代のクジラの進化が分かります。初期の化石の研究から示唆されるのは、最初に現れたクジラには、すべて現代のマッコウクジラやイルカやシャチのように歯があったということです。

先史時代のクジラの中には、歯がなくなり「クジラヒゲ」を備えるようになった種があります。クジラのヒゲは、上あごから垂れ下がった、ブラシの毛のようなもので、オキアミなどの小さな獲物を水から濾し取ります。足寄で発見されたクジラの頭蓋骨の古い化石では、その口に歯とヒゲの両方があるように見え、「歯のあるヒゲクジラ」として知られています。この化石は、クジラの進化において重要なものです。

この博物館の中心にある展示の特徴は、北海道近海に生息している現代のクジラの骨格標本です。ミンククジラ、コククジラ、ツチクジラ、マッコウクジラ、シャチ、ネズミイルカなどの標本があります。

オンネトー湯の滝の展示

オンネトー湯の滝は地熱で温められた滝で、ここから近い阿寒摩周国立公園内にあります。この滝は、地球上で唯一、マンガン酸化物が自然に生成するのを地上で観察できる場所です。この博物館は、マンガン鉱を含む岩や、オンネトー湯の滝で1日に生成するマンガン酸化物の量などを見やすく展示しています。その量は、単一電池約60個分になります。マンガン酸化物は、鉄鋼や乾電池の製造に使われる重要な金属化合物です。

特別な体験

足寄動物化石博物館は、家族向けの活動をいくつか提供しています。選択肢としては、化石を自分で掘る、アショロアやデスモスチルスDesmostylusの小さな石膏模型を作る、といったものがあります。各活動には約20～40分かかります。